



電話テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) では、Cisco Unified Communications Manager Administration で個々の更新を実行するのではなく、大量の電話を一括で追加、更新、または削除する迅速かつ効率的な方法を管理者に提供します。BATを使用して、次のタイプの電話を操作できます。

- CiscoUnifiedIPPhones (すべてのモデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

この章では、BAT を使用して、電話テンプレートおよびその他の IP テレフォニー デバイスを操作する方法について説明します。

- [データベースへの電話機の追加 \(1 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレート \(2 ページ\)](#)
- [Jabber デバイスの更新 \(120 ページ\)](#)

データベースへの電話機の追加

BAT を使用して、電話およびその他の IP テレフォニー デバイスを Unified Communications Manager データベースに一括で追加する場合は、個々の電話に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。CTI ポートや H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機の CSV データファイルの作成には、2つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートする
- テキストエディタを使用して、CSV形式のテキストファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CSV ファイルを作成して、電話テンプレートを挿入します。

次のいずれかの選択肢を実行します。

- a) BAT スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成します。
- b) 以下のようにテキスト エディタを使用して CSV データファイルを作成します。
 1. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
 2. テキストエディタを使用して、電話機の CSV データファイルを作成します。このファイルは、使用するファイル形式に従います。
 3. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択し、テキストベースのファイル形式を CSV データファイルと関連付けます。

ステップ 3 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert phones)] を選択して、電話レコードを Unified Communications Manager データベースに挿入します。

関連トピック

[テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け](#)

[BAT 電話機テンプレート \(2 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成 \(86 ページ\)](#)

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

[電話ファイル形式の検索](#)

[Unified Communications Manager への電話の挿入](#)

[電話レコードの検証](#)

BAT 電話機テンプレート

BAT 電話機テンプレートを使用して、共通の電話属性を定義して新しい電話のグループを追加します。テンプレートを作成する前に、デバイスプール、場所、コーリングサーチスペース、ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレートなどの電話設定が Unified Communications Manager Administration 内ですでに設定済みであることを確認します。新しい設定を BAT で作成することはできません。

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話テンプレートが使用される場合があることから、Unified Communications Manager では、ユーザが定義する検索条件に基づいて特定の電話テンプレートを検索できます。



- (注) ブラウザセッションでの作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上のCookieに保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合でも、この Unified Communications Manager の検索設定が、検索条件を変更するまで維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [電話テンプレートの検索 (Find Phone Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- デバイス名 (Device Name)
- 説明
- [電話番号 (Directory Number)]
- [ディレクトリ URI (Directory URI)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- デバイスタイプ
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- 認証文字列
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]

ステップ 3 2番目の [電話テンプレートの検索 (Find Phone Template where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- で始まる
- を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。ウィンドウに、選択した電話機テンプレートが表示されます。

新しいBAT 電話機テンプレートの作成

新しいBAT 電話機テンプレートを作成できます。電話テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新しい電話テンプレートの追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 電話タイプのドロップダウンリストから、テンプレートを作成する電話機モデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 デバイスプロトコルの選択のドロップダウンリストから、デバイスのプロトコルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが、選択したデバイスタイプのフィールドとデフォルト エントリと共に表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を使用できます。

ステップ 6 [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチの共通の電話設定を入力します。一部の電話モデルとデバイスタイプには、一覧に示されている属性がすべて揃っていないものもあります。すべての属性の詳細については、電話機モデルのマニュアルを参照してください。

ステップ 7 このBAT 電話機テンプレートのすべての設定を入力したら、[保存 (Save)] をクリックします。

ステータスにトランザクションが完了したことが示されたら、回線の属性を追加できます。

BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新

BAT テンプレートに1つ以上の回線を追加したり、既存の回線を更新したりできます。BAT テンプレートに使用されるボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線の数が決

定されます。複数回線を持つプライマリ電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザデバイスプロファイルが、選択された設定を使用することになります。

回線テンプレートの値には英数字を使用することが推奨されています。数字のみを指定した場合、実際の電話番号と競合してしまう可能性があります。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号や通話パーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートに応じて異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

ステップ 1 回線を追加する電話テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [回線 [1] - 新規 DN の追加 (Line [1] Add a new DN)] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 回線の設定に適切な値を入力するか、選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 その他の回線の設定を追加するには、[ステップ 2 \(5 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(5 ページ\)](#) を繰り返します。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[回線テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Line Template)] ウィンドウが表示されます。

- a) 既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- b) 新しい回線テンプレートを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

関連トピック

[BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(5 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(6 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

[標準電話テンプレート](#)

BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新

この機能が BAT テンプレートに直接含まれている Cisco Unified IP Phone モデルに、Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。ユーザや電話を IP サービスに一括で登録するには、IP サービスに共通のサービスパラメータが必要で、電話テンプレートを使用して登録する必要があります。

ます。固有のサービスパラメータを持つ IP サービスは一括登録できません。固有のパラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用します。

手順

-
- ステップ 1 IP サービスを追加する電話テンプレートを見つけます。
 - ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規SURLの追加 (Add a new SURL)] をクリックします。
ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、使用可能な Cisco Unified IP Phone サービスに登録できます。
 - ステップ 3 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリスト ボックスで、すべての電話を登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスには、選択したサービスの詳細が表示されます。
 - ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5 [サービス名 (Service Name)] フィールドで、必要に応じてサービスの名前を変更します。
 - ステップ 6 選択したサービスを関連付けるか、他のサービスをテンプレートに追加します。
 - a) これらの電話サービスを電話テンプレートに関連付けるには、[保存 (Save)] をクリックします。
 - b) さらにサービスを追加するには、[ステップ 3 \(6 ページ\)](#) ~ [ステップ 6 \(6 ページ\)](#) を繰り返します。
 - c) すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新 (Update)] をクリックします。選択したテンプレートに対してサービスの追加または更新を実行した後は、次のステップに進みます。
 - ステップ 7 ポップアップウィンドウを閉じます。

関連トピック

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(6 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤル ボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる短縮ダイヤル ボタンの数が決定します。

手順

-
- ステップ 1 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。

- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、次のいずれかを実行します。
- a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 SD の追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。
 - b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [短縮ダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone と拡張モジュールの短縮ダイヤルボタンを指定できます。
- ステップ 3** [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [番号 (Number)] フィールドに、電話番号 (アクセスコードまたは長距離コードを含む) を入力します。
- (注) 電話番号を入力する際に、必要に応じて、強制承認コード (FAC) /クライアント識別コード (CMC) を続けて入力することもできます。このフィールドには電話番号、FAC、CMC を連続して、またはカンマ (,) で区切って入力できます。短縮ダイヤルには、コールが接続された後に DTMF デジットとして送信される PIN、パスワード、またはその他の数字を含めることができます。短縮ダイヤルで接続するときに一時停止を必要とする場合、1 つ以上のカンマ (,) を入力することができます。各カンマは 2 秒間の一時停止を表します。DTMF デジットは、コールが接続され、カンマの数に対応する適切な一時停止期間が経過した後に送信されます。
- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、該当する IP フォンモデルの短縮ダイヤルを設定できます。 [ステップ 3 \(7 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに短縮ダイヤルの設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の話中ランプフィールドの追加または更新

電話ボタン テンプレートに短縮ダイヤル ボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで話中ランプフィールドを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF SD ボタンの数が決定します。

手順

-
- ステップ 1** 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規BLF SDの追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。
- b) ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから、[話中ランプフィールドスピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials)] を選択します。

ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して話中ランプフィールド スピードダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。

- ステップ 3** [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [接続先 (Destination)] フィールドに、接続先 (アクセスコードまたは長距離コードを含む) を入力します。
- ステップ 4** ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに BLF SD の設定が挿入され、ポップアップウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の話中ランプフィールド ダイレクト通話パークの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤル ボタンが備えられている場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで話中ランプフィールド (BLF) ダイレクト通話パークを追加したり、更新したりできます。この BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF ダイレクト通話パーク ボタンの数が決定されます。

手順

- ステップ 1** BLF ダイレクト通話パークを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 BLF ダイレクト通話パークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)] をクリックします。
 - b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [BLF ダイレクト通話パークの追加/更新 (Add/Update BLF Directed Call Park)] を選択します。

ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、BLF ダイレクト通話パーク ボタンを指定できます。
- ステップ 3** [割り当てられていない話中ランプフィールド/ダイレクトコールパークの設定 (Unassigned Busy Lamp Field/Directed Call Park Settings)] 領域で、ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。

- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF ダイレクト通話パーク番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに BLF ダイレクト通話パークの設定が挿入され、ポップアップウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索](#) (2 ページ)

BAT テンプレート内のインターコムテンプレートの追加または更新

1つ以上のインターコムテンプレートをBATテンプレートに追加できます。または既存のインターコムテンプレートをBATテンプレートで更新できます。BATテンプレートに使用しているボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線数が決定します。複数回線を持つ標準電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルは、インターコムテンプレートに選択した設定を使用します。

インターコムテンプレートには英数字を使用することを推奨します。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号や通話パーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートによって異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

-
- ステップ 1** インターコムテンプレートを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [インターコム[1]-新規インターコムの追加 (Intercom [1] - Add a new Intercom)] をクリックします。
[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** インターコムテンプレートの設定に適切な値を入力するか、選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によって、インターコムテンプレートが電話テンプレートの設定に追加されます。
- ステップ 5** その他のインターコムテンプレートの設定を追加するには、[ステップ 2 \(9 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(9 ページ\)](#) を繰り返します。
[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

- (注) [インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。
- 既存のインターコム電話番号を検索するには、[検索 (Find)] をクリックし、適切な検索条件を入力します。
 - 新しいインターコム電話番号を追加するには、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

関連トピック

- [BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(5 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(4 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(6 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)
- [標準電話テンプレート](#)

BAT 電話機テンプレートの変更

手順

- ステップ 1** 変更する電話機テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレート内の設定を追加、変更、または削除します。詳細については、「[表 2: BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 \(58 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 設定を変更してテンプレートを更新した後、[保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

さらに、BAT テンプレートに対して回線、IP サービス、または短縮ダイヤルを追加または更新することができます。

関連トピック

- [BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(5 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(4 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(6 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更したい場合は、既存の電話テンプレートのプロパティを新しい電話テンプレートにコピーできます。コピーでは、元のテンプレートで指定されていたすべての値が複製されます。



(注) 作成する新しいテンプレートが、Cisco IP Phone 7975 など、元のテンプレートと同じデバイスタイプであることを確認します。

手順

ステップ 1 コピーする電話テンプレートを検索します。

ステップ 2 電話テンプレートをコピーします。次のいずれかを実行します。

- [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、それがコピーするテンプレートであることを確認して、[コピー (Copy)] をクリックします。
- [電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、コピーする電話テンプレートに対応する [コピー (Copy)] 列内のアイコンをクリックします。
- テンプレートとそのテンプレートに関連付けられたすべての回線をコピーするには、[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、コピーする電話テンプレートと回線に対応する [スーパーコピー (Super Copy)] 列内のアイコンをクリックします。

ステップ 3 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を使用できます。

例：

Sales_7975

ステップ 4 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。

詳細については、「[表 2: BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 \(58 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT に追加されたテンプレートは、左側の [電話テンプレート (Phone Templates)] に表示されます。

次のタスク

電話回線、IP サービス、および短縮ダイヤルのテンプレートへの追加または更新を続けて実行することができます。

関連トピック

[BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(5 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(4 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(6 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレートの削除

BAT 電話機テンプレートを削除できます。



注意 特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信した場合、その電話機テンプレートを削除すると、そのジョブも削除されます。

手順

ステップ 1 削除する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 電話機テンプレートを削除します。次のいずれかを実行します。

- a) [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、それが削除対象のテンプレートであることを確認して、[削除 (Delete)] をクリックします。
- b) [電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 テンプレートを削除するには、[OK] をクリックします。そのテンプレート名が、[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウの電話機テンプレートのリストから消去されます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(2 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレート フィールドの説明

次の表では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加するときに、表示される可能性のあるフィールドについて説明します。一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定は必要ではなく、一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザ インターフェイスでアスタリスクが付

いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 1: 電話テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス信頼モード (Device Trust Mode)]	デバイスを信頼できるかどうかを選択します。この設定項目は、SCCPを使用するアナログ電話機と、一部のサードパーティのエンドポイントに対して設定できます。
テンプレート名 (Template Name)	テンプレートの名前を入力します。
説明	作成する電話テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
オンボーディングにはアクティベーションコードが必要です	このテンプレートを使用する電話機のオンボードに、自動登録ではなくアクティベーションコードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) このオプションは、アクティベーションコードをサポートする電話機でのみ使用できます。
デバイスプール	この電話機グループまたはポートグループのデバイスプールを選択します。 デバイスの場合、デバイスプールは、自動再登録に必要な共通の特性 (地域、日時グループ、Unified Communications Managerグループ、コーリングサーチスペースなど) のセットを定義します。

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性（サービスまたは機能）が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。 共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このグループ内のすべての電話機のボタンテンプレートを選択します。ボタンテンプレートにより、ボタンの内容（回線、短縮ダイヤル）と、電話機上のボタンの位置が決まります。ボタンテンプレートには拡張モジュールが含まれています。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループのすべての電話機に使用するソフトキーテンプレートを選択します。
[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)]	ドロップダウンリストで、使用可能な共通の電話プロフィールのリストから共通の電話プロフィールを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	電話機/ポートのこのグループのコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された（発信側）番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。

フィールド	説明
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>この電話グループまたはポートグループのメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL には、優先順位付けされたメディアリソースグループのリストが表示されます。アプリケーションは、MRGL で定義されている優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから必要なメディアリソースを選択します。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>この電話グループまたはポートグループのユーザ保留音源を選択します。</p> <p>ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にするとときに再生される音楽の音源を指定します。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>この IP フォングループまたはポートグループのネットワーク保留音源を選択します。</p> <p>ネットワーク保留音源は、システムによりコールが保留されるとき (ユーザがコールを転送またはパークするときなど) に再生される音楽の音源を指定します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>この IP フォングループまたはポートグループの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションに対して送受信可能な帯域幅の合計を指定します。設定値の [なし (None)] は、この Cisco IP Phone で使用される帯域幅がロケーション機能によって追跡されないことを意味します。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] を [なし (None)] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

フィールド	説明
[ユーザ ロケール (User Locale)]	<p>この IP フォングループに関連付ける国と言語設定を選択します。</p> <p>この選択項目によって、このユーザーの文化に依存する属性と、Unified Communications Manager のユーザーウィンドウおよび電話機でユーザーに表示される言語が決まります。</p>
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>この電話機グループに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイおよび電話機が、特定の地域の PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する、一連の呼び出し音とリズムを構成します。</p>
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストを使用して ([On (オン)]、[Off (オフ)]、または [デフォルト (Default)] を選択)、割り込み機能用のビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーが必要な電話機のそれぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストから [オン (On)] を選択します。</p>

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウンリストから、このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにします。デフォルトのデバイス モビリティモードを使用する場合は、[デフォルト (Default)]を選択します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)]をクリックし、これらのデバイスモビリティパラメータの現在の値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • [デバイス プールのローミング (Roaming Device Pool)] • [所在地 (Location)] • [地域 (Regions)] • ネットワーク ロケール • AAR グループ (AAR Group) • AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) • デバイス コーリング サーチ スペース (Device Calling Search Space) • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST]
[所有者のユーザ ID (Owner User ID)]	<p>プライマリ電話のユーザのユーザIDを入力します。</p>

フィールド	説明
[モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] (デュアルモード電話のみ)	<p>ドロップダウンリストから、このデュアルモード電話を割り当てるユーザーのユーザー ID を選択します。</p> <p>(注) モバイル ユーザ ID 設定は、デュアルモード電話の Cisco Unified Mobility およびモバイル音声アクセス機能に使用されます。</p> <p>(注) オーナー ユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なっていても構いません。</p>
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウンリストから、電話機のパーソナライゼーション設定を有効、または無効にするか、あるいは、[デフォルト (Default)] を選択して、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] で設定した電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。次のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Desabled)]: 電話機のいずれのパーソナライゼーション設定も有効にされません。 • [有効 (Enabled)]: この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)]: [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。

フィールド	説明
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウンリストの次の値から、使用するサービスプロビジョニング設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内部 • 外部 URL • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータは、設定ファイル (内部) 、サービス URL から受信するサービス (外部 URL) 、またはその両方にプロビジョニングされているサービスを電話機で使用するかを制御します。[外部 URL (External URLs)] オプションは、サードパーティ製プロビジョニングサーバとの後方互換性を提供します。[両方 (Both)] オプションを選択すると、ユーザは設定ファイルに指定されているサービスにサブスクライブできるだけでなく、外部プロビジョニングサーバのサービスも追加することができます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>必要に応じてカスタムの電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに値を入力すると、選択したモデルのデフォルトの値は上書きされます。</p> <p>Cisco IP Phone ソフトウェアおよびその設定の詳細については、電話機のモデルに応じた『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p>

フィールド	説明
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	<p>ドロップダウンリストボックスから、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割り込み (Barge)] : この設定はワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割込 (CBarge)] : この設定はワンボタンC割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービスパラメータのワンボタン割り込みまたはC割り込みの設定を使用します。
複数ライン同時通話 (Join Across Lines)	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] 機能を有効または無効にするか、あるいは [デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータ設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を無効にします。 • [オン (On)] : この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービスパラメータの [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] の設定を使用します。

フィールド	説明
[信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントにトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入できるかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効化する場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスでの TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスは信頼できるリレーポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえばトランスコーダやRSVPAgent) が必要な場合、Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い位置に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p>

フィールド	説明
<p>[BLF オーディオアラート設定（電話がアイドルのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Idle)）]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • Default <p>このパラメータは、話中ランプ フィールド (BLF) ボタンでモニタされている回線のいずれかにコールが着信したときに、現在アイドル状態の電話機で、ビジュアルアラートに加えてオーディオアラートも提供します。</p> <p>必須フィールドです。</p>
<p>[BLF オーディオアラート設定（電話がビジーのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)）]</p>	<p>必須フィールドであるこのパラメータは、話中ランプ フィールド (BLF) ボタンでモニタされている回線のいずれかにコールが着信すると、現在使用中の電話機にビジュアルアラートに加えてオーディオアラートも提供します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default

フィールド	説明
常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [オフ (Off)] : 電話機がアイドルで、いずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からのコールに応答します。• [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、電話機ユーザはそれらの他の回線を選択して、これらのコールに応答する必要があります。• デフォルト : Unified Communications Manager は、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービスパラメータの設定を使用します。これにより、Cisco CallManager サービスがサポートされます。

フィールド	説明
ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	<p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話機がアイドルの場合、電話機のユーザが電話機の [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、ボイスメッセージを受信するために電話のプライマリ回線がアクティブ回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話機がアイドルの場合、電話機の [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、ボイスメッセージのある回線から、ボイスメッセージシステムを自動的にダイヤルします。Unified Communications Manager は、常に音声メッセージのある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザーが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • デフォルト : Unified Communications Manager は、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービスパラメータの設定を使用します。これにより、Cisco CallManager サービスがサポートされます。
[位置情報 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リストから地理位置情報を選択します。</p> <p>位置情報で [未指定 (Unspecified)] を選択すると、このデバイスを位置情報に関連付けないように指定できます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>

フィールド	説明
[機能コントロール ポリシー (Feature Control Policy)]	<p>この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。</p> <p>機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能と関連付けられたソフトキーがどう表示されるかを指定します。</p>
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[システム デフォルトを使用 (Use System Default)] : 電話機ではエンタープライズパラメータ [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)] で指定された値が使用されません。</p> <p>[非セキュア (Non-secure)] : 電話機にはどのセキュリティ機能もありません。Unified Communications Manager への TCP 接続が開かれます。</p> <p>[Authenticated] : Unified Communications Manager は電話の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>[Encrypted] : Unified Communications Manager は電話の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、電話機のモデルが認証や暗号化に対応している場合だけです。</p>

フィールド	説明
[ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオコールとしての接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオ コールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、即座にオーディオ コールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、ビデオとして接続できないビデオ コールをオーディオ コールとして接続する試行は行われません。そのコールはコール制御に送られ、コール制御によって自動代替ルーティング (AAR) やルート/ハントリストを介してルーティングされます。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))]	<p>コール単位でコール表示制限を設定する場合に、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は内線コールについて受信するすべての表示制限を無視します。</p>
[CTI からのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI 制御可能なすべてのデバイスに対して、CTI からの制御を許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスは、[CTI 制御可能デバイス タイプ (CTI Controllable Device Type)] と [デバイス プロトコル (Device Protocol)] に基づいて、有効または無効にできます。</p> <p>(注) WiFi モードで動作している Android、iPhone、iPad などの Cisco デュアルモード デバイス (Jabber) は、CTI を介してモニターされ、制御されません。ただし、GSM モードで動作しているデバイスはモニターまたは制御できません。</p>

フィールド	説明
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、すべての電話機に対してデフォルトでオンにされていて、電話機が現在ハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機をハント リストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン (またはオフ) にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザーは電話のソフトキーを使用して、電話をハント リストにログインまたはログアウトします。</p>
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>SCCP を介したリモート サイトへの接続で遅延時間が発生する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は電話デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルします。</p> <p>この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機で、シグナルの遅延が発生している場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。ほとんどのユーザにこのオプションは必要ありません。</p>

フィールド	説明
[保護されたデバイス (Protected Device)]	<p>電話機を保護されたデバイスとして指定するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>「」この場合、電話機が2秒間トーンを再生してユーザにコールが暗号化されていることを通知します。また、発信側と着信側の両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されます。このトーンは、コールが応答されたとき、発信側と着信側の両者に対して再生されます。このトーンは、発信側と着信側の両方の電話が「保護され」ていて、なおかつ暗号化メディア上でコールが行われたときでなければ再生されません。</p> <p>ヒント セキュアトーン機能および設定要件の詳細な説明については、『<i>Cisco Unity Connection System Administration Guide</i>』を参照してください。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットラインデバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットラインデバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に1つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーを含まないソフトキーテンプレートを作成し、それをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
[番号表示トランスフォーメーション (Number Presentation Transformation)]	
[この電話からのコールの発信者 ID (Caller ID For Calls From This Phone)]	

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、コーディング検索スペース (CSS) を選択します。CSS には、この電話機がコールを発信するときに発信側番号に適用される、発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれます。</p> <p>この電話機がコールを開始すると、Unified Communications Manager は、一致する発呼側トランスフォーメーションパターンに設定された数字変換を使用して、発信者番号を変換します。この設定により、Unified Communications Manager がコールをルーティングする前に、発信者番号を変換できます。たとえば、トランスフォーメーションパターンで電話機の内線番号を E.164 に変更できます。これは一般に、ユーザが数字ではなく、URI を使用してダイヤルする場合に設定されます。Unified Communications Manager では、ユーザが数字を使用してダイヤルする場合、さまざまなパターンの発呼側トランスフォーメーションが可能です。この設定では、ユーザが URI を使用する場合でも同じようなトランスフォーメーションが提供されます。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (この電話からのコールの発信者 ID) (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS (Caller ID For Calls From This Phone))]	<p>この電話機から開始されたコールの発信者番号のトランスフォーメーションを行うために、この電話機が属しているデバイスプールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用する場合には、このチェックボックスを選択します。デバイスプールでは、[電話機の設定 (Phone Settings)]にある発呼側トランスフォーメーション CSS を使用して、この電話から開始されたコールの発信者番号が変換されます。</p> <p>このチェックボックスをオフのままにしておくと、この設定ウィンドウに表示されている発呼側トランスフォーメーション CSS が適用されます。</p>
リモート番号のトランスフォーメーション	

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この電話機に着信したコールのリモート発信者番号に適用する、発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれているコーリングサーチスペース (CSS) を、ドロップダウンリストボックスから選択します。</p> <p>Unified Communications Manager は、発信者番号をこのデバイスに表示する前に、一致する発呼側トランスフォーメーションパターンに設定された数字変換を使用して、リモート発信者番号を変換します。</p> <p>たとえば、トランスフォーメーションパターンで E.164 形式のリモート番号をローカライズされたバージョンに変更できます。</p> <p>この設定を使用すると、この電話機から開始されたダイレクトコールのリモート接続番号が変換されます。この設定を使用すると、コールの方向に関係なく、この機能呼び出した後に、リモート接続番号を変換することもできます。リモート接続番号のトランスフォーメーションは、サービスパラメータ [リモート番号にトランスフォーメーションを適用 (Apply Transformations on Remote Number)] (Cisco Call Manager サービスの [詳細 (Advanced)] セクションにあります) を使用して制御されます。詳細は、このパラメータの説明を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (デバイスモビリティ関連情報) (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS (Device Mobility Related Information))]	<p>リモート発信者番号とリモート接続先番号を変換するために、この電話機が属しているデバイスプールで設定された発呼側トランスフォーメーションCSSを適用する場合には、このチェックボックスを選択します。デバイスプールでは、[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)] セクションにある発呼側トランスフォーメーションCSSを使用して、リモート発信者番号とリモート接続先番号が変換されます。</p> <p>このチェックボックスをオフのままにしておくと、リモート番号の変換のために、この設定ウィンドウに表示されている発呼側トランスフォーメーションCSSの設定が適用されません。</p>

フィールド	説明
	[関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)] : これらのモビリティ フィールドは、Nokia S60 デバイスおよび Cisco Unified Mobile Communicator フォンでのみ使用可能です。[新しいモバイル ID の追加 (Add New Mobile Identity)] リンクをクリックすると、[モバイル ID の設定 (Mobile Identity Configuration)] ページが表示されます。
名前	モバイル ID を識別する名前を入力します。
宛先番号 (Destination Number)	その ID の電話番号を入力します。市外局番、および外部回線を使用するために必要な追加番号を含めます。フィールドの最大長は 24 文字で、個々の文字には 0 から 9、*、および # を使用できます。発信者 ID にはスマートフォンの接続先を設定することを推奨します。 接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加します。
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	携帯電話が応答できるようになるまでに経過する最小時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト : 1,500 ミリ秒
[呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)]	携帯電話が応答しなければならない時まで経過する最大時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲 : 10,000 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト : 19,000 ミリ秒
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)]	卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。 範囲 : 0 ~ 30,000 ミリ秒 デフォルト : 4,000 ミリ秒
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウンリストボックスから、この接続先に関連付ける時刻アクセスを選択します。

フィールド	説明
タイムゾーン	<p>ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に使用するタイムゾーンを選択します。</p> <p>(注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能がこの接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。</p>
[携帯電話 (Mobile Phone)]	<p>デスクの電話機で応答したコールを、リモート接続先としての携帯電話に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) Cisco Unified Mobility でこのリモート接続先を操作する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[Cisco Unified Mobility を有効にする (Enable Cisco Unified Mobility)]	<p>着信コールでデスクフォンとリモート接続先を同時に呼び出せるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)] : [新しいリモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)] リンクをクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ページが表示されます。	
名前	<p>リモート接続先を識別する名前を入力します。</p>
宛先番号 (Destination Number)	<p>その接続先の電話番号を入力します。市外局番、および外線の取得に必要な追加番号を含めてください。フィールドの最大長は24文字です。値には、0～9の数字、*、および#を入力できます。リモート接続先の発信者IDを設定することを推奨します。</p> <p>接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加します。</p>
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	<p>携帯電話が応答できるようになるまでに経過する最小時間を、ミリ秒単位で入力します。</p> <p>範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト : 1,500 ミリ秒</p>

フィールド	説明
[呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)]	携帯電話が応答しなければならない時まで経過する最大時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲：10,000 ～ 300,000 ミリ秒 デフォルト：19,000 ミリ秒
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)]	卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。 範囲：0 ～ 30,000 ミリ秒 デフォルト：4,000 ミリ秒
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に関連付ける時刻アクセスを選択します。
タイムゾーン	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に使用するタイムゾーンを選択します。 (注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能がこのリモート接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。
[携帯電話 (Mobile Phone)]	デスクの電話機で応答したコールを、リモート接続先としての携帯電話に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) Cisco Unified Mobility でこのリモート接続先を操作する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
[Cisco Unified Mobility を有効にする (Enable Cisco Unified Mobility)]	着信コールでデスクフォンとリモート接続先を同時に呼び出せるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[プロトコル固有の情報 (Protocol Specific Information)]	

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、シグナルパケットキャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)]: モードを指定しない場合は、[なし (None)]を選択します。 • [リアルタイムモード (Real-Time Mode)]: リアルタイムシグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)]: バッチ処理シグナルパケットキャプチャモードには、このモードを使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。デフォルトの時間は、60 分です。</p>
[BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)]	<p>BLFプレゼンス機能と併用すると、SIPまたはSCCPを実行している電話機は、プレゼンスエンティティ (たとえば、電話機にBLF短縮ダイヤルボタンとして設定されている電話番号) に関するステータスをリクエストするので、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているBLFプレゼンスグループを選択します。この項目は、[BLFプレゼンスグループの設定 (BLF Presence Group Configuration)]ウィンドウで指定されます。</p>

フィールド	説明
[SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤルルールを選択します。SIP ダイヤルルールは、SIP を実行している Cisco IP フォン 7940、7975 のローカルダイヤルプランを提供するため、ユーザは、コールが処理される前にキーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。</p> <p>SIP を実行している IP フォンにダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<なし (None) >] に設定したままにします。これは、コールが処理される前に、ユーザがダイヤルソフトキーを使用するか、タイマーが切れるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP または SIP を実行している電話機について、そのデバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話機に、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロファイルを選択してください。</p>
[MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>メディアターミネーションポイントが SIP のコールに必要な場合は、ドロップダウンリストから使用するコーデックを選択します。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>リファラーの再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で参照が失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージによって要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>

フィールド	説明
[アウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペース (Out-of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なアウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) REFER 認証コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログREFER を認証します。管理者は、参照元の OOD CSS を設定することでアウトオブダイアログREFER の使用を制限できます。Refer Primitive は OOD Refer 要求を「403 Forbidden」メッセージで拒否します。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>
[SIPプロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたは作成済みの特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルは、電話機の特定の SIP 情報 (デフォルトのテレフォニーイベントペイロードタイプ、登録タイマーおよびキープアライブタイマー、メディアポート、絞り、および動的DNSサーバアドレスなど) を提供します。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIPセキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで設定されていることを確認してください。</p> <p>電話の設定を保存して電話機をリセットすると、ここで選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが電話の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必要 (Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドでは、H.323がサポートしない機能（保留や転送など）を実装するために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指示します。</p> <p>MTP を使用して機能を実装する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオンにします。MTP を使用して機能を実装しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323クライアントとH.245の機能セットをサポートしないH.323デバイスの場合、または単一のソースから、メディアストリーミングを終了させる場合にのみ使用します。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信が必要な場合には、このチェックボックスをオンにします。
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP を実行している電話で RFC2833 サポートを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (これらのパラメータは、認証または暗号化をサポートする機能のあるデバイスでのみ表示されます。)	

フィールド	説明
[証明書 の 操作 (Certificate Operation)]	<p data-bbox="943 296 1479 401">ドロップダウンリストボックスのオプションから、実行する [証明書 の 操作 (Certificate Operation)] を選択します。</p> <ul data-bbox="976 422 1479 915" style="list-style-type: none"><li data-bbox="976 422 1479 600">• [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りのCAPF フィールドが無効になります。<li data-bbox="976 621 1479 726">• [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書操作をインストールまたはアップグレードします。<li data-bbox="976 747 1479 810">• [削除 (Delete)] : 証明書操作を削除します。<li data-bbox="976 831 1479 915">• [トラブルシュート (Troubleshoot)] : 証明書操作をトラブルシュートします。

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	

フィールド	説明
	<p>ドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中から、証明書操作の実行時にCAPFを使用して認証する電話機の認証モードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ヌルストリング (By Null String)] : ユーザ操作なしで、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 • <[なし (None)]> <p>(注) このオプションでは、認証モードの値の指定を要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証文字列 (By Authentication String)] : ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 • [既存の証明書 (LSCが優先) (By Existing Certificate (Precedence to LSC))] : 電話機に製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 <p>(注) このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [既存の証明書 (MIC が優先) (By Existing Certificate (Precedence to MIC))] : 電話機に LSC または MIC が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。

フィールド	説明
	<p>(注) このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>セキュリティプロファイルの [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リストボックスから [認証文字列 (By Authentication String)] オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4桁から10桁の数字を手動で入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、トラブルシューティングするには、電話機ユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
[キーの順序 (Key Order)]	<p>このフィールドは、CAPFのキーの順序を指定します。ドロップダウンリストから、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [RSAのみ (RSA Only)] • [ECのみ (EC Only)] • [EC優先、RSAバックアップ (EC Preferred, RSA Backup)] <p>(注) [キーの順序 (Key Order)]、[RSAキーサイズ (RSA Key Size)]、および [ECキーサイズ (EC Key Size)]のフィールドの値に基づいて電話を追加すると、デバイスセキュリティプロファイルはその電話に関連付けられます。値 [ECのみ (EC Only)]と [ECキーサイズ (EC Key Size)]で256ビットの値を選択した場合、デバイスセキュリティプロファイルには [EC-256]の値が追加されます。</p>

フィールド	説明
[RSAキーサイズ (ビット) (RSA Key Size (Bits))]	<p>ドロップダウンリストから、512、1024、2048、3072、または4096のいずれかの値を選択します。</p> <p>(注) 一部の電話機モデルでは、CallManager の [証明書 の目的 (Certificate Purpose)] に対して選択された RSA の [キーの長さ (key length)] が 2048 を超える場合、登録に失敗します。Cisco Unified Reporting Tool (CURT) の [Unified CM 電話機能リスト レポート (Unified CM Phone Feature List Report)] にあるサポート対象の電話機モデルの一覧で、3072/4096 RSA キーサイズのサポート機能を確認できます。</p>
[ECキーサイズ (ビット) (EC Key Size (Bits))]	ドロップダウンリストから、 256 、 384 、または 521 のいずれかの値を選択します。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	このフィールドは、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、[証明書操作のトラブルシューティング (Troubleshoot Certificate Operation)] オプションをサポートし、操作を完了する必要がある日時を指定します。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドは証明書の操作の進捗状況、たとえば、<操作の種類> が保留中であるか、失敗したか、成功したかを示します。このとき、操作の種類は、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、または [証明書操作のトラブルシューティング (Troubleshoot Certificate Operation)] オプションのいずれかに等しくなります。このフィールドに表示される情報は変更できません。
拡張モジュール情報	
[モジュール 1 (Module 1)]	電話機に拡張モジュールがインストールされている場合、その拡張モジュールを選択します。

フィールド	説明
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	最初の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白にします。
[モジュール 2 (Module 2)]	電話機に拡張モジュールがインストールされている場合、その拡張モジュールを選択します。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白にします。
Cisco Unified IP Phone - 外部データのロケーション	
情報	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンに対応するヘルプテキスト URL を入力します。
ディレクトリ (Directory)	Cisco Unified IP Phone のディレクトリサーバーの URL を入力します。
メッセージ	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージング アクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	Cisco Unified IP Phone のサービスメニューに対応する URL を入力します。
認証サーバ	電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルでの拡張機能が機能しません。デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。 この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified Communications の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。

フィールド	説明
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントからローカル ホスト アドレス以外に対するプロキシ HTTP のアクセス要求に使用するホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機がサービスで URL (www.cisco.com など) を受信した場合、その電話機が cisco.com ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用して URL にアクセスします。電話機が cisco.com ドメインに設定されている場合は、その電話機は URL と同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p>
アイドル (Idle)	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定した時間の間、電話が使用されなかった場合に、Cisco Unified IP Phone の LCD 画面にアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合に、LCD 画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	<p>[アイドル (Idle)] フィールドで指定されている URL を電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>

フィールド	説明
[セキュア認証URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) セキュア認証 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトで、この URL はインストール時に設定された [Cisco Unified CM ユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元サーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュア ディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[セキュアアイドルURL (Secure Idle URL)]	<p>電話機が使用されていない時間が[アイドルタイマー (Idle Timer)]フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュアアイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>
[セキュア情報URL (Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプのテキスト情報を検索できるサーバロケーションのセキュアな URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長：255</p>

フィールド	説明
[セキュアメッセージURL (Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア メッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアサービスURL (Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこのセキュア URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア サービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
エクステンション モビリティ (デバイス プロファイル) 情報	
エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)	<p>エクステンション モビリティ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティでは、ユーザによる Cisco IP Phone へのログインおよびログアウトが可能です。</p>

フィールド	説明
[ログアウト プロファイル (Log Out Profile)]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトしたときに電話機がロードするプロファイルを選択します。ログアウト プロファイルが Unified Communications Manager Administration で設定されている必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Setting)]: この選択肢は、デフォルトのプロファイルとして、自動生成されるデバイス プロファイルを作成します。</p> <p>[ユーザ デバイス プロファイルを選択 (Select a User Device Profile)]: この選択肢は、既に定義されている、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルとなるユーザ デバイス プロファイルを割り当てます。</p> <p>どのユーザもログインしていない場合は、この選択されたユーザ デバイス プロファイルがデバイスにロードされます。</p>
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	

フィールド	説明
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [デフォルト (Default)] : このデバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。• [オフ (Off)] : このデバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。• [オン (On)] : このデバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] 設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>

フィールド	説明
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP プリエンプション設定をデバイスプールから継承します。 • [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールを行ったときに、進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは MLPP 優先コールを行ったときに、進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]が[強制 (Forceful)]に設定されているときに、[MLPP 通知 (MLPP Indication)]を[オフ (Off)]に設定するという組み合わせでデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] (「0000FF」 など)	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインの16進数値を入力します。このフィールドは空白か、または、0～FFFFFFの値である必要があります。
[H.323 デバイス情報 (H.323 Device Information)]	
[シグナリング ポート (Signaling Port)]	<p>この値は、このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1～65535 です。</p>

フィールド	説明
[ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオコールとしての接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオ コールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、送信側デバイスにより即座にオーディオコールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合は、ビデオとして接続できないビデオコールはコール制御に失敗します。この時点で、コール制御はそのコールをルートリスト内で再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定されており、有効になっている場合も、コール制御はルートリスト間でコールを再ルーティングします。</p>
[遠端 H.245 端末の機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっており、Cisco Unified Communications Manager が機能の交換を開始することを指定しています。このチェックボックスは、Cisco Unified Communications Manager が、自身の H.245 端末機能セットを送信する前に、遠端の H.245 端末機能セットを受信する必要があることを指定します。</p>
[H.323 プロトコル固有情報 (H.323 Protocol Specific Information)]	
[SRTP 許可 (SRTP Allowed)]	<p>このチェックボックスをオンにした場合は、エンドツーエンドセキュリティを提供するために IPsec がネットワークで設定されていることを確認してください。設定されていないと、キーや他の情報が流出します。</p>
[MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>メディア ターミネーション ポイントが SIP のコールに必要な場合は、ドロップダウン リストから使用するコーデックを選択します。</p>

フィールド	説明
[メディア ターミネーション ポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドを使用して、H.323がサポートしない機能（保留や転送など）を実装するために、メディア ターミネーション ポイント (MTP) を使用するかどうかを指示します。</p> <p>機能を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオンにします。メディアターミネーションポイントを使用して機能を実装しない場合は[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323クライアントとH.245の機能セットをサポートしないH.323デバイスの場合、または単一のソースから、メディアストリーミングを終了させる場合にのみ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして、MTPを必要とし、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになる場合、コールはオーディオとしてのみ機能します。</p>
H.323 情報	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	電話機への着信コールについて、発信者IDに使用するパターンを0～24桁の数字列で入力します。

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>どの電話番号が送信されるのかを指定するオプションを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外線) (First Redirect Number(external))] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外線) (Last Redirect Number(external))] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>セントラル オフィスで発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスで発信者 ID を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。 • セントラル オフィスで発信者 ID を送信しない場合は、[規制 (Restricted)] を選択します。 • [デフォルト (Default)] の場合は、コール ストリームの前のレベルで発信者 ID が規制されていない限り、発信者 ID が表示されます。
[表示 IE の配信 (Display IE Delivery)]	<p>発信側および着信側のネームデリバリ サービスにおいて、SETUP および CONNECT メッセージでの表示情報要素 (IE) を配信するには、このチェックボックスをオンにします。</p>

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト-アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コール転送時に、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに、コールの最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を示すリダイレクト番号 IE を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージから最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を除外する場合は、チェック ボックスをオフにします。</p> <p>番号 IE のリダイレクトは、音声メッセージング統合にのみ使用します。ボイスメッセージング システムが番号 IE のリダイレクトをサポートするように設定した場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE delivery - Inbound)]	<p>番号 IE のリダイレクトをサポートしているボイスメッセージング システムの統合を行う場合は、リダイレクト番号 IE を使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージに含まれるリダイレクト番号 IE を受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージでリダイレクト番号 IE を除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	

フィールド	説明
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、ゲートキーパー制御H.323デバイスのゲートキーパーを選択します。</p> <p>(注) リリース 15 以降、H.323 ゲートキーパー制御オプションはサポートされなくなりました。したがって、Location Bandwidth Manager (LBM) で SIP トランクを使用することをお勧めします。</p> <p>(注) デバイスを選択しない場合、システムにより [E.164]、[Technology Prefix]、および [ゾーン (Zone)] フィールドが無効になります。</p> <p>(注) デバイ스에複数の電話番号が設定されている場合、デバイスをゲートキーパー制御電話に変更することはできません。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>

フィールド	説明
[Technology Prefix]	<p>Gw-type-prefix コマンドを設定するときに、各 Cisco Unified Communications Manager システムで IP アドレスを入力する必要がないように、この Technology Prefix を入力します。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合は、このフィールドに 1#* と入力できます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合、このフィールドに値を入力することは必須です。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[(Zone)]	<p>ゲートキーパー上で、Cisco Unified Communications Manager が登録する特定のゾーンを入力します。このゾーンは、このゾーンと別のゾーンの間のコールで使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御電話の場合、このフィールドに値を入力することは必須です。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコアだけです。</p>
[ゲートキーパー制御 H.323 クライアント (Gatekeeper Controlled H.323 Client)]	<p>制御ゲートキーパーとして H.323 クライアントゲートキーパーを設定するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
サイレント (DND)	
サイレント (Do Not Disturb)	<p>DND を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[DND オプション (DND Option)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、DND のオプションとして次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • [呼出音オフ (Ringer Off)]

フィールド	説明
[DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • Disable • [点滅アラートのみ (Flash Only)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザー (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザーのユーザー ID を入力します。設定中の電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュアシェルを使用します。TAC にお問い合わせください。</p>
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュア シェル ユーザーのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合は、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
<p>デバイス メーカーにより定義されている、モデル固有の設定フィールド</p>	<p>プロダクト固有の設定には、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが指定されています。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「[?]」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のデバイスのドキュメントを参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>

BAT テンプレートの電話回線フィールドの説明

次の表では、BATテンプレートで回線を追加または更新したときに表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。

- BAT 電話機テンプレート
- ゲートウェイテンプレート
- UDP テンプレート
- リモート接続先テンプレート

一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定を行う必要はありません。一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザーインターフェイスでアスタリスクが付いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 2: BATテンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
ディレクトリ番号に関する情報	
[回線テンプレート名 (Line Template Name)]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。 このフィールドは回線を追加する場合にのみ入力可能で、既存の回線を更新する際には入力できません。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	回線テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。

フィールド	説明
アクティブ (Active)	このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。このチェックボックスがオフの場合、Cisco Unified Communications Manager は DN を無視します。
[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号を、この回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。このアクションは、この電話に設定されたボイス メッセージング サーバがない場合に便利です。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	この電話番号からコールする番号の検索対象であるパーティションを選択します。 (注) 変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	プレゼンス機能と併用すると、電話番号はプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャが電話番号のステータスをリクエストすると、その電話番号のリアルタイム ステータスがデバイスに表示されます。 プレゼンス エンティティのステータスを電話が受信できるようにするには、ウォッチャのプレゼンス グループに対して、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスの閲覧が許可されていることを確認します。この項目は、[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウで指定されます。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが HOLD を押してコールを保留にしたときに流れる保留音の音源を選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ユーザがコールを転送したり、電話会議やコールパークを開始する間に、システムによりコールが保留にされるときに流れる保留音の音源を選択します。

フィールド	説明
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかのオプションを選択して、その電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答 オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)]または[スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)]を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p> <p>共有回線を持つデバイスに、自動応答を設定しないでください。</p>
[AAR 設定 (AAR Settings)]	<p>: このフィールド列の設定は、宛先に到達するために十分な帯域幅がないコールの処理方法を指定します。自動代替ルーティング (AAR) は、AAR宛先マスクまたはボイス メールに転送されるこうしたコールを処理します。</p>
[AAR ボイス メール (AAR Voice Mail)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>(注) このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [カバレッジ/接続先 (Coverage/Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>
[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)]	<p>外線電話番号マスクの代わりにこの設定を使用すると、ダイヤル先の AAR 宛先が決まります。</p>
[AAR CSS]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。</p> <p>[AARグループ (AAR Group)]を [なし (None)]に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、コールの AAR レッグを [コール履歴 (Call History)] に表示できます。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号はサービスパラメータ「」 [メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] の設定を参照します。) • [点灯およびプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • なし (None) <p>この設定は、右側にある [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにのみ適用されます。(このチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>

フィールド	説明
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ • [オン (On)]: このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにしたときに断続ダイヤルトーンが聞こえます。 • [デフォルト (Default)]: このオプションを選択すると、電話ではシステム レベルで設定されたデフォルト設定が使用されます。
[コール ピックアップ グループ オーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle))]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once)])、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)]: このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータ [コール ピックアップ グループ 警告音の設定 (電話のアイドル時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)]: コール ピックアップ グループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)]: コール ピックアップ グループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none">• [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager のサービスパラメータ [ビジーステーションのコールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定により決まります。• [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。• [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。

フィールド	説明
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドではエージェントのライン アピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのライン アピアランスで発信するコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのライン アピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのライン アピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションを [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定する場合、ライン アピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効にされている場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのライン アピアランスの録音プロファイルを決定します。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
コール転送とピックアップの設定 (Call Forward and Pickup Settings)	

フィールド	説明
[ボイス メールへ転送 (Forward to Voice Mail)]	<p>ボイス メール プロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)] フィールドと [不在転送コーリングサーチスペース (Forward All Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]	<p>すべてのコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の接続先を含む任意のダイヤル可能な電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送コーリングサーチスペース (Forward All Calling Search Space)]	<p>指定された接続先にコールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウンリストボックスからセカンダリコーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ベースの機能のため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するのに回線のコーリングサーチスペースのみを使用します。回線のコーリングサーチスペースが制限されており、ルーティングできない場合は、転送を試行すると失敗します。</p> <p>[不在転送 (Call Forward All)] にセカンダリコーリングサーチスペースを追加すれば、転送が可能になります。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは、不在転送が処理されるときに連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して CFA 接続先を検証し、コールを転送します。</p>

フィールド	説明
[話中転送ボイス メール (内部) (Forward Busy Internal Voice Mail)]	<p>内線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward Busy Internal Calling Search Space)]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送ボイス メール (外部) (Forward Busy External Voice Mail)]	<p>外線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]	<p>回線が使用中のときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な外線電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward Busy External Calling Search Space)]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無応答時のボイスメール転送（内部）（Forward No Answer Internal Voice Mail）]	<p>内線番号からボイスメールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先（内部）（Forward No Answer Internal Destination）] フィールドと [コーリングサーチスペース（Calling Search Space）] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無応答時転送の接続先（内部）（Forward No Answer Internal Destination）]	<p>電話が無応答のときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>（注） この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース（内部）（Forward No Answer Internal Calling Search Space）]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>（注） この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送ボイスメール（外部）（Forward No Answer External Voice Mail）]	<p>ボイスメールプロファイルで選択した外線番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先（外部）（Forward No Answer External Destination）] フィールドと [外部コーリングサーチスペース（External Calling Search Space）] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無応答時転送の接続先（外部）（Forward No Answer External Destination）]	<p>電話が無応答のときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>（注） この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な外線電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース（外部）（Forward No Answer External Calling Search Space）]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>（注） この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無カバレッジ時転送ボイスメール (内部) (Forward No Coverage Internal Voice Mail)]	<p>内線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)]フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]チェックボックスには関係ありません。</p>
[無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)]	<p>電話のカバレッジがないときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Coverage Internal Calling Search Space)]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送ボイスメール (外部) (Forward No Coverage External Voice Mail)]	<p>外線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)]フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]チェックボックスには関係ありません。</p>
[無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)]	<p>電話のカバレッジがないときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Coverage External Calling Search Space)]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[CTI 障害時ボイスメール転送 (Forward on CTI Failure Voice Mail)]	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートにのみ適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送をどのように扱うのかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。内線コールに対してこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージングシステムに転送しない場合は、外線コールに対して [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
[CTI 障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination)]	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが自動転送される電話番号またはディレクトリ URI を指定します。任意のダイヤル可能な電話番号 (外部接続先を含む) を使用します。</p> <p>内線コールの接続先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに、別の値を入力する必要があります。</p>
[CTI 障害時転送のコーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure Calling Search Space)]	<p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p>内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、別の設定値を選択する必要があります。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)]	<p>コールの呼び出し時間の秒数を入力します。この時間が過ぎるとコールが [無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] に転送されます。</p>

フィールド	説明
[コール ピックアップグループ (Call Pickup Group)]	[ピックアップグループ名 (Pickup Group Name)]を選択して、コールピックアップグループを指定します。このグループは、該当するピックアップグループ番号にダイヤルして、この電話番号への着信コールに応答することができます。
パーク モニタリング	
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]	パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト : 60 秒 (注) 0以外の値を設定すると、その値によって、[サービスパラメータ (Service Parameters)]ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)]ウィンドウの値が使用されます。

フィールド	説明
[パーク モニタリング転送非取得時 ボイス メール (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロ ファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィン ドウの設定が使用されます。 (注) このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチ スペース (Calling Search Space)] の設定を無視 します。
[パーク モニタリング転送非取得時 の接続先ボイス メール (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロ ファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィン ドウの設定が使用されます。 (注) このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチ スペース (Calling Search Space)] の設定を無視 します。
パーク モニタリング転送非取得時 の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択しま す。
パーク モニタリング転送非取得時 の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択 します。
[未登録内線の不在転送ボイスメ ール (内部) (Forward Unregistered Internal Voice Mail)]	このフィールドは、内線 DN コールにのみ適用されます。 コールは指定された宛先番号またはボイス メールに再ルー ティングされます。 未登録の内線番号からのコールをボイス メールプロファイ ルで選択した番号へ転送する場合は、このチェックボック スをオンにします。 このチェックボックスをオンにしても、[未登録内線の転送 接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)] フィ ールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスには関係ありません。
[未登録内線の転送接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)]	回線が使用中のときに、未登録の内線コールの転送先とす る電話番号を入力します。 この設定は、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電 話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[未登録内線の転送 CSS (Forward Unregistered Internal CSS)]	指定された宛先に未登録内線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の転送ボイス メール (Forward Unregistered External Voice Mail)]	このフィールドは、外線 DN コールにのみ適用されます。コールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。 (注) 電話番号の [サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、転送するコールの最大件数も指定する必要があります。
[未登録外線の転送接続先 (Forward Unregistered External Destination)]	回線が使用中のときに、外線コールの転送先とする電話番号を入力します。 この設定は、外線接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての外線電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の転送 CSS (Forward Unregistered External CSS)]	指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 代替パーティ設定	
[転送先 (Target)]	この電話番号が優先コールを受信し、この番号もこのコールの転送先のいずれも優先コールに無応答の場合に、MLPP 優先コールがリダイレクトされる番号を入力します。 値には、数字およびシャープ#) とアスタリスク (*) を使用できます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、代替パーティのターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。

フィールド	説明
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (秒) (MLPP No Answer Ring Duration (Seconds))]	<p>秒数 (4 秒から 30 秒) を入力します。この時間を過ぎてもこの電話番号およびそのコール転送先が優先コールに無応答の場合、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティにリダイレクトされます。</p> <p>Unified Communications Manager の [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] エンタープライズパラメータの設定値を使用するには、この設定を空白のままにします。</p>
[この電話の回線設定 (Line Settings for This Phone)]	
[表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))]	<p>このフィールドは、ラインアピラランスに電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>入力例としては、複数の電話番号を扱う秘書やアシスタントにとって複数の電話番号を識別できるような、上司の名前や部門名、その他適当な情報などがあります。</p>
[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))]	<p>このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>この設定は、右側の [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにしか適用されません。(右側のチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>
[回線テキスト レベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>(注) デフォルトでは英語が指定されています。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールには、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。</p>

フィールド	説明
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号はサービスパラメータ「」 [メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] の設定を参照します。) • [点灯およびプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • なし (None) <p>この設定は、右側にある [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにのみ適用されます。(このチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] • [オン (On)]: このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにしたときに断続ダイヤルトーンが聞こえます。 • [デフォルト (Default)]: このオプションを選択すると、電話ではシステム レベルで設定されたデフォルト設定が使用されます。

フィールド	説明
[呼出音設定（電話がアイドルのとき）（Ring Setting (Phone Idle)）]	<p>着信コールがあり、そのデバイスで他のアクティブ コールがない場合の、ライン アピアランスの呼び出し音設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）] • Disable • [フラッシュのみ（Flash Only）] • [一度鳴らす（Ring Once）] • 呼び出し中（Ring）
[呼出音設定（電話がアクティブのとき）（Ring Setting (Phone Active)）]	<p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）] • Disable • [フラッシュのみ（Flash Only）] • [一度鳴らす（Ring Once）] • 呼び出し中（Ring） • [ビーブ音のみ（Beep only）]
[コール ピックアップ グループ オーディオアラートの設定（電話がアイドルのとき）（Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)）]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか（[一度鳴らす（Ring Once）]）、または何も聞こえません（[無効（Disabled）]）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）]：このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータ [コール ピックアップ グループ 警告音の設定（電話のアイドル時）（Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station）] の設定によって決定されます。 • [無効にする（Disable）]：コール ピックアップ グループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす（Ring Once）]：コール ピックアップ グループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager のサービスパラメータ [ビジーステーションのコールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定により決まります。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。

フィールド	説明
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドではエージェントのライン アピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのライン アピアランスで発信するコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションが [自動的にコール録音有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーション呼び出しによるコール録音有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定されている場合は、ラインアピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効の場合、アプリケーションによる録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのライン アピアランスの録音プロファイルを決定します。ドロップダウンリストボックスから既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>

フィールド	説明
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[不在着信のログを取る (Log Missed Calls)]	<p>このチェックボックスを使用して、この機能を有効または無効にします。チェックボックスがオン (有効) として表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機の該当する電話番号のコール履歴に不在着信を記録します。</p>

フィールド	説明
<p>[不在転送CSS アクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy)]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済みCSSを使用 (With Configured CSS)] • [アクティブなデバイス/回線CSSを使用 (With Activating Device/Line CSS)] <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションを選択した場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定された不在転送コーリング サーチ スペースにより、不在転送のアクティベーションと自動転送が制御されます。Forward All コーリング サーチ スペースを None に設定した場合、Forward All に対して CSS は設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。不在転送のアクティブ化中に、不在転送コーリングサーチスペースおよび不在転送セカンダリ コーリング サーチ スペースの変更は発生しません。</p> <p>不在転送コーリング サーチ スペースを明示的に設定せずに、電話番号のコーリング サーチ スペースとデバイスのコーリング サーチ スペースを組み合わせて利用する場合は、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS)] を選択します。不在転送が電話機によってアクティブになっている場合にこのオプションを選択すると、不在転送コーリングサーチスペースと不在転送セカンダリ コーリング サーチ スペースに、電話番号のコーリング サーチ スペースとアクティブ化デバイスのデバイス コーリング サーチ スペースが自動的に入力されます。</p>
<p>[保留復帰の呼び出し時間 (秒) (Hold Reversion Ring Duration (seconds))]</p>	<p>保留している通話者の電話機にコール復帰アラートを送信するまでの待機時間 (秒単位) を指定するには、0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力します。</p> <p>値 0 を入力した場合、Unified Communications Manager は保留通話の復帰機能呼び出しません。</p>

フィールド	説明
[保留復帰の通知間隔 (秒) (Hold Reversion Notification Interval (seconds))]	<p>0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力して、保留している電話にリマインダアラートを送信する間隔 (秒) を指定します。</p> <p>値 0 を入力した場合、Unified Communications Manager はリマインダアラートを送信しません。</p>
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービスパラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)] : 通常のコールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変化すると、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス、つまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (会議コントローラなど) がコールに残っていないときや、制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[オン (On)] を選択していてもトーンは再生されません。 • [オフ (Off)] : 通常のコールがマルチパーティ コールに変化しても、電話でトーンは再生されません。
複数コール/コール待機設定	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの回線あたり最大 184 件のコールを設定できます。ただし、デバイスによって最大数は制限されます。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で使用できるコール数が減少します。</p> <p>デフォルト値は4です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が2に設定されます。</p> <p>CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。</p> <p>このフィールドは [話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。</p>

フィールド	説明
[話中トリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と共に機能し、回線上に存在できるコールの最大数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます。その際に、[話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送もされます。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになるまで着信コールは拒否されません。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と組み合わせて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
このデバイスの転送呼の情報表示	
[発信者名 (Caller Name)]	転送呼を受信したときの表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	転送呼を受信したときの表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送呼を受信したときの表示に転送元番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送呼を受信したときの表示にダイヤル番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルト設定では、このチェックボックスはオンになっています。
[ディレクトリ URL (Directory URI)] フィールド	

フィールド	説明
[電話番号の URI (1-5) (URI(1-5) on Directory Number)]	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。</p> <p>(注) Cisco Unified CM Administration では、二重引用符またはカンマが組み込まれたディレクトリ URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared,"Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは "Jared","Jerry",Smith@test.com" と入力する必要があります。</p>
[電話番号の URI (1-5) ルートパーティション (URI (1-5) Route Partition on Directory Number)]	ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に最大 5 個のディレクトリ URI を関連付けることができますが、プライマリディレクトリ URI に選択できるのは 1 つだけです。</p>

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(4 ページ\)](#)

[リモート接続先プロファイルテンプレートでの回線の追加または更新](#)

[既存の UDP への回線の追加](#)

[ゲートウェイテンプレートの追加または編集](#)

インターコムテンプレートを追加するためのBATテンプレートのフィールドの説明

次の表では、BAT 電話、ゲートウェイ、または UDP テンプレートにインターコムテンプレートを追加するときに表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定を行う必要はありません。一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザーインターフェイスでアスタリスクが付いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 3: BAT テンプレートにインターコムテンプレートを追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[インターコムテンプレート名 (Intercom Template Name)]	インターコムテンプレートの一意の名前を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	電話番号とルートパーティションの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (< >) は使用できません。
[表示 (内部発信者 ID) (Display Internal Caller ID)]	このフィールドは、ラインアピラランスに電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 入力例としては、複数の電話番号を扱う秘書やアシスタントにとって複数の電話番号を識別できるような、上司の名前や部門名、その他適当な情報などがあります。

フィールド	説明
[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))]	<p>このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>この設定は、右側の [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにしか適用されません (右側のチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>
[回線テキスト レベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>(注) デフォルトでは英語が指定されています。</p>
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。</p>
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	<p>このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。</p>
短縮ダイヤル	<p>ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムがダイヤルする電話番号を入力します。入力できるのは、数字の 0 から 9 までと、*、#、および + (国際エスケープ文字) です。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールには、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。</p>
インターコム電話番号の設定	

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールを発信できる番号を検索するための、パーティションのリストで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	プレゼンス機能でこのフィールドを設定します。 ド롭ダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンスグループを選択します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンドユーザ、アプリケーションユーザを指定します。
自動応答	次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答 オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] (注) 共有回線を持つデバイスに、自動応答を設定しないでください。
[デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、この電話番号のデフォルトのアクティブ デバイスを選択します。選択されたデバイスは、この電話番号がデフォルトで有効になっている電話です。ド롭ダウン リスト ボックスにはインターコムをサポートするデバイスのみが表示されます。 (注) このインターコム電話番号がインターコム回線として有効になる、デフォルトのアクティブ デバイスを指定する必要があります。 (注) インターコム DN が Cisco Extension Mobility に設定されたデバイスプロファイルで指定されている場合、デバイスでインターコム機能がサポートされていれば、先のデバイスプロファイルを使用して指定されたデフォルトのアクティブ デバイスにユーザがログインするときのみ、そのインターコム DN がインターコム回線として表示されます。

BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、CSV データファイルを作成します。スプレッドシート内でファイル形式を定義できます。そうすると、BAT スプレッドシートは、そのデータファイル形式を使用して CSV データファイルのフィールドを表示します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。

BAT スプレッドシートに空の行を含めると、その空の行がファイルの終わりとして扱われます。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

CTI ポートの追加時に、ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。このオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。



注目 BAT スプレッドシートで電話機用に定義する回線や短縮ダイヤルの数は、BAT 電話機テンプレートで定義された数を超えないようにしなければなりません。超えてしまうと、CSV データファイルや BAT テンプレートを挿入しようとするときにエラーが発生します。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

エクスポートしたファイルをローカル ワークステーションに保存したら、CSV 形式のデータファイルの名前を変更できます。



(注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると (例: abcd,e.txt) 、サーバにアップロードできません。

手順

- ステップ1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ3** 電話のオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [電話 (Phone)] タブをクリックします。
- ステップ4** 次のいずれかのデバイスタイプを表すラジオボタンを選択します。

選択するデバイス タイプによって、BAT スプレッドシートでのデータの検証基準が決まります。

- 電話機
- CTI ポート (CTI Port)
- H.323 クライアント (H.323 Client)
- VGC フォン (VGC Phones)
- VGC 仮想電話機 (VGC Virtual Phones)
- Cisco IP Communicator フォン (Cisco IP Communicator Phone)

スプレッドシートには、選択されたデバイスに対して選択可能なオプションが表示されます。たとえば、電話を選択すると、電話回線や短縮ダイヤルの数に関するフィールドが表示されます。

- ステップ5** 各電話機の BAT スプレッドシートに表示されるデバイスや回線のフィールドを選択します。次の手順を実行します。
- a) [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックします。
 - b) デバイスフィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データファイルには、[MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。
 - c) [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線 (Selected Line)] および [デバイス (Device)] ボックス内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して、上矢印と下矢印を使用してそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

- d) 既存の CSV 形式を上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[作成 (Create)] をクリックして、CSV データファイル形式を変更します。
- e) [OK] をクリックします。
選択されたフィールドの新しい列が指定された順序で BAT スプレッドシート内に表示されます。

ステップ 6 右にスクロールして [電話回線数 (Number of Phone Lines)] ボックスを見つけ、電話機の回線数を入力します。

(注) BAT テンプレートで設定された回線の数を超えた回線数を入力することはできません。

ステップ 7 電話機では、[短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)] ボックスに、短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。

(注) BAT テンプレートで設定された短縮ダイヤルの数を超えた短縮ダイヤル数を入力することはできません。

数値を入力すると、短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 8 [BLF 短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of BLF Speed Dials)] ボックスに、話中ランプ フィールド (BLF) 短縮ダイヤル ボタンの数を入力します。

数値を入力すると、BLF 短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 9 スプレッドシートで、各回線の個々の電話についてデータを入力します。

すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。電話フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 10 各電話の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。

注目 ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ステップ 11 BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータファイルにデータを移すには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ヒント エクスポートされた CSV データファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の挿入 (Insert phones)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

ファイルは、デフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt でローカルワークステーション上の選択したフォルダに保存されます。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する TAPS の概要](#)
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

次の表で、CSV データ ファイルにデバイスおよび回線の詳細を追加するために使用できる電話フィールドの詳細について説明します。

表 4: BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

フィールド	説明
デバイスフィールド (Device Fields)	
MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)	電話機、VGC 仮想電話機、VGC 電話機の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの場合は、固有 ID (デバイス名) を入力します。[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Addresses)] チェックボックスをオンにすると、デバイスの固有 ID を自動的に生成できます。
説明	電話機またはデバイスを識別する説明を入力します (「Conference Room A」、「John Smith」 など)。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)	この電話機/ポート グループのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは、使用可能なメディア リソースの中から MRGL で定義されている順に、必要なメディア リソースを選択できます。
ユーザー保留音のソース (User Hold Audio Source)	この IP フォンまたは CTI ポートのグループに使用されるユーザ保留音源を入力します。 ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にすると再生される保留音の音源を指定します。
ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)	この IP フォンまたは CTI ポートのグループで使用するネットワーク保留音源を入力します。 ネットワーク保留音源は、ユーザがコールを転送したり、パーク保留にする場合など、システムがコールを保留にするとときに再生される音楽の音源を示します。

フィールド	説明
ユーザーロケール (User Locale)	<p>この IP Phone のグループに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。</p> <p>この選択項目によって、このユーザーの文化に依存する属性と、Unified Communications Manager のユーザーウィンドウおよび電話機でユーザーに表示される言語が決まります。</p>
ネットワーク ロケール (Network Locale)	<p>この電話機グループに関連付けるネットワーク ロケールを入力します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。</p>
ソフトキー テンプレート (Softkey Template)	このグループのすべての電話機に使用するソフトキーテンプレートを入力します。
共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)	ドロップダウンリスト ボックスで、使用可能な共通の電話プロフィールのリストから共通の電話プロフィールを選択します。
デバイスプレゼンスグループ (Device Presence Group)	<p>プレゼンス機能で使用します。SIP または SCCP を実行する電話機は、プレゼンスエンティティに関するステータス (たとえば、電話機で BLF スピードダイヤル ボタンとして設定されている電話番号など) を要求するため、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話機が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。</p>
電話ロード名 (Phone Load Name)	<p>必要に応じて、カスタム電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力する値によって、選択した電話機のデフォルト値がオーバーライドされます。</p> <p>値は、CTI ポートには適用されません。</p>
セキュリティ プロファイル (Security Profile)	<p>デバイスに適用するセキュリティプロフィールを入力します。選択したプロフィールを電話機がサポートしていない場合、Unified Communications Manager は設定の適用を許可しません。</p> <p>すべての電話機には、セキュリティプロフィールを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロフィールを選択してください。</p>

フィールド	説明
デバイスSUBSCRIBEコーリングサーチスペース (Device SUBSCRIBE CSS)	プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。この機能に使用するコーリングサーチスペースを入力します。
E.164	ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。 (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。 (注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。
ユーザ ID	電話ユーザのユーザ ID を入力します。
メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)	このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースリスト (Media Resource List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。
AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)	自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを入力します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
MLPP ドメイン (MLPP Domain)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。この値は空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にしてください。
MLPP 通知 (MLPP Indication)	SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : MLPP 表示設定をデバイスプールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 • [オン (On)] : MLPP 優先コールの通知を処理します。

フィールド	説明
MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイス上で、MLPP 優先コールを発信する際にプリエンプション機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 • [オン (On)] : MLPP 優先コールの通知を処理します。
シグナルパケットキャプチャモード (Signal Packet Capture Mode)	<p>シグナル パケット キャプチャに設定するモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : モードを指定しない場合は、[なし (None)] を選択します。 • [リアルタイムモード (Real-Time Mode)] : リアルタイム シグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : バッチ処理シグナルパケット キャプチャモードには、このモードを使用します。
パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)	<p>パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。</p>
認証文字列 (Authentication String)	<p>4 ~ 10 桁の数字列を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話ユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicator)	<p>[はい (Yes)] または [いいえ (No)] を入力して、コールごとのコール表示制限を設定します。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は内線コールについて受信するすべての表示制限を無視します。</p>
SIP プロファイル (SIP Profile)	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたは作成済みの特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルでは、電話機の特定の SIP 情報 (デフォルトテレフォニー イベント ペイロードタイプ、登録タイマーおよびキープアライブタイマー、メディアポート、絞り、ダイナミック DNS サーバアドレスなど) を指定します。</p>

フィールド	説明
ダイジェストユーザ (Digest User)	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択するユーザのダイジェスト クレデンシャルが [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで設定されていることを確認してください。</p> <p>電話の設定を保存して電話機をリセットすると、ここで選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが電話の設定ファイルに追加されます。</p>
ログアウト プロファイル (Log Out Profile)	<p>エクステンションモビリティユーザがログアウトするときに電話機にロードするプロファイルを入力します。ログアウトプロファイルが Unified Communications Manager Administration で設定されている必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Setting)] : このオプションを選択すると、自動生成デバイス プロファイルがデフォルトのデバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[ユーザ デバイス プロファイルを選択 (Select a User Device Profile)] : このオプションを選択すると、定義済みのユーザデバイスプロファイルがデフォルトのデバイスプロファイルとしてこのデバイスに割り当てられます。</p> <p>ユーザがログインするときには、ここで選択されたユーザデバイスプロファイルがデバイスにロードされます。</p>
[SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec]	<p>SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。</p>
[ダイヤルルール (Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤルルールを入力します。SIP ダイヤルルールは、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7975 のローカルダイヤルプランを提供するため、ユーザは、コールが処理される前に、キーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。</p> <p>SIP を実行している IP フォンにダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<なし> (<None>)] に設定したままにします。この場合、ユーザがダイヤルソフトキーを使用するか、タイマーが切れるまで、コールは処理されません。</p>

フィールド	説明
[CSS再ルーティング (CSS Reroute)]	<p>再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>システムは参照元の再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、参照先へのルートを検索します。再ルーティング コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」 メッセージによって要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>
[電話の共通設定 (Common Phone Configuration)]	<p>この電話機に割り当てる共通の電話設定を入力します。共通の電話設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。</p>
[コーリングサーチスペース参照 (Calling Search Space Refer)]	<p>アウト オブ ダイアログ REFER コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) REFER 認証コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ REFER を認証します。管理者は、参照元の OOD CSS を設定することでアウト オブ ダイアログ REFER の使用を制限できます。Refer Primitive は OOD Refer 要求を「403 Forbidden」 メッセージで拒否します。</p>
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>実行する証明書の操作として、次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし (No Pending Operation)]: このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドが無効になります。 • [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]: 証明書の操作をインストールまたはアップグレードします。 • [削除 (Delete)]: 証明書の操作を削除します。 • [トラブルシューティング (Troubleshoot)]: 証明書の操作をトラブルシューティングします。
[証明書の操作完了時間 (Certificate Operation Completion Time)]	<p>このフィールドは、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、[トラブルシューティング (Troubleshoot)] の証明書の操作オプションをサポートし、操作の完了期限を指定します。</p>

フィールド	説明
[セキュアシェルユーザー (Secure Shell User)]	セキュア シェル ユーザーのユーザー ID を入力します。設定中の電話機がセキュア シェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュア シェルを使用します。TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュア シェルユーザーのパスワードを入力します。設定中の電話機がセキュア シェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。
[デバイス プール (Device Pool)]	該当するデバイス プールを入力します。 デバイス プールは、このデバイスの一連のプロパティ (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリング サーチ スペースなど) を指定します。
ビルトインブリッジ (Built-in Bridge)	[オン (On)]、[オフ (Off)]、または[デフォルト (Default)]を入力して、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を有効または無効にします。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	該当するコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号から発信された電話番号を検索するパーティションのコレクションで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[所在地 (Location)]	このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションを[(ハブなし) Hub_None]に設定すると、ロケーション機能はこの電話機が消費する帯域幅を追跡しません。
モジュール 1	該当する拡張モジュールを入力するか、空白のままにします。
[モジュール1ロード名 (Module 1 Load Name)]	必要に応じて、該当する拡張モジュールのカスタムソフトウェアを入力します。 入力する値により、現在のモデルのデフォルト値が上書きされます。ファームウェアロードがモジュールロードと一致するようにしてください。
モジュール 2	該当する拡張モジュールを入力するか、空白のままにします。
[モジュール2ロード名 (Module 2 Load Name)]	必要に応じて、2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します。 入力する値により、現在のモデルのデフォルト値が上書きされます。ファームウェアロードがモジュールロードと一致するようにしてください。

フィールド	説明
電話テンプレート (Phone Template)	このタイプの一括トランザクション用に作成した電話テンプレート名を入力します。
認証サーバ	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しないと、Cisco Unified IP Phone 上の認証を必要とする拡張機能は有効になりません。デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p>
プロキシサーバ	<p>電話機の HTTP クライアントからローカルホストアドレス以外に対するプロキシ HTTP のアクセス要求に使用するホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機がサービスで URL (www.cisco.com など) を受信した場合、その電話機が cisco.com ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用して URL にアクセスします。電話機が cisco.com ドメインに設定されている場合は、その電話機は URL と同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p>
アイドル (Idle)	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone LCD 画面にアイドル表示として表示する XML サービスの URL を入力します。</p> <p>たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD 画面にロゴを表示できます。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	[アイドル (Idle)] フィールドで指定されている URL を電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。

フィールド	説明
[セキュア認証URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) セキュア認証 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元サーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュアディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアアイドルURL (Secure Idle URL)]	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュアアイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[セキュア情報URL (Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプ テキスト情報を見つけられるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアメッセージURL (Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア メッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアサービスURL (Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこのセキュア URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア サービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>「T」または「F」と入力します。ホットライン デバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に 1 つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーを含まないソフトキーテンプレートを作成し、それをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
[所有者のユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話ユーザのユーザ ID を入力します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	この電話機を割り当てる共通の電話プロファイルを入力します。共通の電話プロファイルには、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	このデバイスのデバイスモビリティ機能をオンまたはオフにするか、デフォルトのデバイスモビリティモードを使用する場合は、[デフォルト (Default)] を入力します。
[DNDオプション (DND Option)]	次のいずれかの DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • [呼出音オフ (Ringer Off)]
[DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • Disable • [点滅アラートのみ (Flash Only)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[プライバシー (Privacy)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
Use Trusted Relay Point	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Default • オフ (Off) • オン (On)
情報 (Information)	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンに対応するヘルプテキスト URL を入力します。

フィールド	説明
ディレクトリ (Directory)	Cisco Unified IP Phone のディレクトリサーバーの URL を入力します。
メッセージ	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージング アクセス パイロット番号を入力します。
サービス (Services)	Cisco Unified IP Phone のサービスメニューに対応する URL を入力します。
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。入力する発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割り込み (Barge)]: この設定はワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C 割込 (CBarge)]: この設定はワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービス パラメータのワンボタン割り込みまたは C 割り込みの設定を使用します。
[複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を無効にします。 • [オン (On)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービス パラメータで構成されている複数ライン同時通話機能する機能の設定を使用します。
[BLF可聴アラート設定 (電話のアイドル時) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle))]	BLF警告音設定として、次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default <p>この必須フィールドのパラメータは、ビジー回線フィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されていない電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p>

フィールド	説明
[BLF可聴アラート設定（電話がビジーのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)）]	この必須フィールドには、BLF 警告音設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
常にプライム回線を使用する	[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
ボイス メッセージに常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	この必須フィールドには、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内部 • 外部 URL • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)]
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : 電話機のパーソナライゼーション設定はアクティブにされません。 • [有効 (Enabled)] : この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロファイルの電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。
[モビリティアイデンティティ名 (Mobility Identity Name)]	リモート接続先を識別する名前を入力します。

BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

フィールド	説明
[モビリティアイデンティティ接続先番号 (Mobility Identity Destination Number)]	<p>接続先の電話番号を入力します。市外局番、および外線の取得に必要な追加番号を含めてください。フィールドの最大長は24文字です。値には、0～9の数字、*、および#を入力できます。リモート接続先の発信者IDを設定することを推奨します。</p> <p>接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加してください。</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し開始タイマー (Mobility Identity Answer Too Soon Timer)]	<p>携帯電話に応答を許可するまでの最小経過時間 (秒数) を入力します。</p> <p>範囲：0～10,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：1,500 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し終了タイマー (Mobility Identity Answer Too Late Timer)]	<p>携帯電話に応答を許可する最大経過時間 (秒数) を入力します。</p> <p>範囲：10,000～300,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：19,000 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し前の遅延 (Mobility Identity Delay Before Ringing Cell)]	<p>卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。</p> <p>範囲：0～30,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：4,000 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ時刻アクセス (Mobility Identity Time of Day Access)]	このリモート接続先に関連付ける時刻アクセスレコードを入力します。
[モビリティアイデンティティタイムゾーン (Mobility Identity Time Zone)]	<p>このリモート接続先に使用するタイムゾーンを入力します。</p> <p>(注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能でこのリモート接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。</p>
[モビリティアイデンティティモバイルコネクットの有効化 (Mobility Identity Enable Mobile Connect)]	このフィールドに「T」または「F」と入力することで、着信コールによる卓上電話とリモート接続先の同時呼び出しを許可または禁止します。
[モバイルスマートクライアントプロファイル (Mobile Smart Client Profile)]	<p>モバイルスマートクライアントプロファイルは、スマートクライアントデバイスおよびデュアルモード電話機用のスマートクライアントです。</p> <p>Cisco Unified Mobile Communicator を有効にするには、このフィールドに「Standard Cisco Unified Mobile Communicator Profile」と入力します。無効にするには、空白のままにします。</p>

フィールド	説明
地理的な場所	電話機に関連付ける位置情報を入力します。 電話機に位置情報を関連付けない場合は、「unspecified」と入力します。
機能コントロール ポリシー	この電話機グループの機能管理ポリシーを入力します。 機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。
回線フィールド (オプション)	
[電話番号 (Directory Number)]	電話機の電話番号を最大24文字の数字と特殊文字で入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを入力します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
ディスプレイ (Display)	着信側電話機のディスプレイに表示されるテキスト (たとえば、ユーザ名 (John Smith)、電話機のロケーション (Conference Room 1) など) を入力します。 (注) このフィールドが空白のままになっている場合、システムは [電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力されている値を使用します。 (注) デフォルト言語は英語です。
[回線テキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 (注) デフォルト言語は英語です。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この操作は、電話機にボイスメッセージングサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[回線コーリングサーチスペース (Line Calling Search Space)]	この電話番号から発信された番号を検索する対象のパーティションを入力します。 (注) この設定を変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされているピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。</p> <p>AAR グループ設定を [<なし> (<None>)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Forward All CSS	<p>コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary CSS for Forward All)]	セカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。
[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]	<p>すべてのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward Busy Internal CSS)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy Destination External)]	<p>外部番号から使用中の回線に入ってきたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Destination External)]	<p>内部番号から使用中の回線に入ってきたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Answer External CSS)]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Answer Internal CSS)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)]	<p>電話機が応答しないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)]	<p>電話機が応答しないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Coverage External CSS)]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Coverage Internal CSS)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)	<p>電話機にカバレッジがないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)	<p>電話機にカバレッジがないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
失敗時転送コーリングサーチスペース (外部/内部) (Calling Search Space Forward on Failure External/Internal)	<p>(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
失敗時転送の接続先 (外部/内部) (Forward on Failure Destination External/Internal)	<p>(CTI ポートのみ) 電話または CTI アプリケーションが失敗したときに、内部番号または外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p>
CTI障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination)	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールの転送先とする電話番号を指定します。任意のダイヤル可能な電話番号 (外部接続先を含む) を使用します。</p> <p>内線コールの接続先の値を入力すると、その値が自動的に外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

フィールド	説明
CTI 障害時転送のコーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure Calling Search Space)	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、別の設定値を選択する必要があります。
Call Pickup Group	ピックアップグループ名を選択してコールピックアップグループを指定します。該当するピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、指定されたコールピックアップグループは、この電話番号への着信コールに応答できます。
外部電話番号マスク	この回線からコールが発信されたときに、発信者ID情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 による外部コールにより、発信者IDの番号として 9728131234 が表示されます。
無応答時転送の呼び出し時間 (CFNA) (Forward No Answer Ring Duration (CFNA))	コールに呼び出しを許可する秒数を入力します。この時間に達すると、コールは無応答時接続先に転送されます。
宛先 (MLPP) (Target Destination (MLPP))	この電話番号が MLPP 優先コールを受信し、この電話番号だけでなくこの電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合に MLPP 優先コールを転送する番号を入力します。 入力できる値は、数字、ポンド記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。
コーリングサーチスペース (MLPP) (Calling Search Space (MLPP))	代替パーティターゲット (接続先) の番号に関連付けるコーリングサーチスペースを入力します。
無応答時の呼び出し時間 (MLPP) (No Answer Ring Duration (MLPP))	この電話番号も、この電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合、ここに入力する時間 (4 ~ 30 秒) が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに転送されます。 Unified Communications Manager の [優先代替パーティタイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] エンタープライズパラメータの設定値を使用するには、この設定を空白のままにします。

フィールド	説明
コール最大数 (Maximum Number of Calls)	<p>クラスタ内のデバイスの回線には最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイス自体が制限要因となります。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で使用できるコール数が減少します。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が 2 に設定されます。</p> <p>CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。このフィールドは、[話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。</p>
話中トリガー (Busy Trigger)	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と共に機能し、回線上に存在できるコールの最大数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます。その際に、[話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送もされます。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになるまで着信コールは拒否されません。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と組み合わせて使用します。デフォルトではコール数が 4500 に指定されます。</p>
Alerting Name	<p>この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。</p>
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	<p>このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスには、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドに指定された内容が表示されます。</p>

フィールド	説明
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Auto Answer Off (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p> <p>回線が共有されているデバイスに自動応答を設定することはできません。</p>
ルートフィルタ	<p>[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を入力できます。また、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_) の各記号も任意の組み合わせで含めることができます。各ルートフィルタ名がルートプランに対して固有であることを確認してください。</p> <p>(注) 簡単に識別しやすい名前をルートフィルタに使用します。通常は、CompanynameLocationCalltype の形式を使用すると、必要十分な詳細を含めつつ、ルートフィルタをすばやく簡単に識別できる短い名前になります。たとえば、CiscoDallasMetro とすれば、ルートフィルタがダラスのシスコオフィスからの無料 Local Access and Transport Area (LATA) コール用であることを識別できます。</p>
ダイヤルプラン (Dial Plan)	ダイヤルプラン ([北米番号計画 (North American Numbering Plan)] など) を入力します。
[ユーザネットワーク保留MOH音源 (Line User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音 (MOH) の音源を入力します。
[回線ネットワーク保留MOH音源 (Line Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始したときに再生される保留音 (MOH) の音源を入力します。

フィールド	説明
[呼出音設定 (電話のアクティブ時) (Ring Setting (Phone Active))]	<p>この電話の別の回線にアクティブコールがあるときに使用される呼び出し音の設定を入力します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • Disable • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring) • [ビープ音のみ (Beep only)]
呼出音設定 (電話のアイドル時) (Ring Setting (Phone Idle))	<p>着信コールを受信したデバイスに他のアクティブコールがない場合のラインアピアランスの呼出音設定を入力します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • Disable • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring)
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
AAR接続先マスク (AAR Destination Mask)	<p>ダイヤルする AAR 接続先の決定に外線電話番号マスクの代わりに使用する設定を入力します。</p>
未登録内線の不在転送-接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)	<p>回線が使用中のときに、未登録の内線コールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>この設定は、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered Internal CSS)	<p>未登録の内線コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
未登録外線の不在転送：接続先 (Forward Unregistered External Destination)	<p>回線が使用中のときに、外線コールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>この設定は、外線接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての外線電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered External CSS)	<p>外線コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ • [オン (On)] : このオプションを入力した場合、ハンドセットをオフフックにすると、断続ダイヤルトーンを受信します。 • [デフォルト (Default)] : このオプションを入力した場合、電話機はシステムレベルで設定されているデフォルトを使用します。
コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle))	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once)])、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータ [コールピックアップグループ警告音の設定 (電話のアイドル時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)] : コールピックアップグループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音が聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータ [コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話のアクティブ時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。
コール録音オプション (Call Recording Option)	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションは [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] に指定されます。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションを [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定する場合、ラインアピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効にされている場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
録音プロファイル (Recording Profile)	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスの録音プロファイルを決定します。</p>

フィールド	説明
モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザのラインアピランスウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
不在転送 CSS アクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy)	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済みCSSを使用 (With Configured CSS)]
パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)	<p>パーティ参加トーンに関する次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービスパラメータに設定されている値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティコール (つまり、割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変更されると、電話機でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティコールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティコールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。会議コントローラーなどの制御デバイスが通話に存在しない場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合、Unified Communications Manager は [オン (On)] を選択してもトーンを再生しません。 • [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティコールに変更されても、電話機でトーンは再生されません。
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination)]	<p>パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>

BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

フィールド	説明
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination)]	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[パークモニタリング転送非取得時のボイスメール (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail)]	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 この設定を使用すると、Unified Communications Manager は [宛先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パーク モニタリング転送非取得時のボイスメール (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 この設定を使用すると、Unified Communications Manager は [宛先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パークモニタリング転送非取得時のコーリングサーチスペース (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
パークモニタリング転送非取得時のコーリングサーチスペース (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)]	このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト : 60 秒 0 以外の値を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が、この値でオーバーライドされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

フィールド	説明
不在着信のログを取る (Log Missed Calls)	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Unified Communications Manager が電話機のその電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」と入力します。「F」と入力すると、この機能が無効になります。
[電話番号の URI (1-5) (URI (1-5) on Directory Number)]	この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。 (注) Cisco Unified CM Administration では、二重引用符またはカンマが組み込まれたディレクトリ URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは"Jared, ""Jerry"",Smith@test.com" と入力する必要があります。
[電話番号のURI(1-5)ルートパーティション (URI (1-5) Route Partition on Directory Number)]	ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。 (注) 1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1 つのプライマリディレクトリ URI を選択する必要があります。
エンタープライズをローカルルートパーティションに追加 (Enterprise Add to Local Route Partition)	このエンタープライズ代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」 と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」 と入力します。
エンタープライズをグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」 と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」 と入力します。

フィールド	説明
エンタープライズは緊急 (Enterprise Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマーサービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
エンタープライズ番号マスク (Enterprise Number Mask)	<p>電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなるエンタープライズ代替番号を作成します。</p>
エンタープライズルートパーティション (Enterprise Route Partition)	<p>このエンタープライズ代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。</p>
+E.164 をローカルルートパーティションに追加 (+E.164 Add to Local Route Partition)	<p>この E.164 代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。</p>
[+E.164をグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)]	<p>ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。</p>

フィールド	説明
+E.164 は緊急 (+E.164 Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマーサービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
+E.164 番号マスク (+E.164 Number Mask)	<p>電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなる +E.164 代替番号を作成します。</p>
+E.164 ルートパーティション (+E.164 Route Partition)	<p>この +E.164 代替番号を割り当てるローカルルートパーティションを入力します。</p>
インターコム フィールド (オプション)	
[インターコムディレクトリ番号 (Intercom Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。値には、数字とルートパターンワイルドカード、および (.) と (@) を除く特殊文字を使用できます。</p> <p>入力した電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。</p> <p>国際番号用のエスケープ文字 + を使用する場合は、電話番号の先頭に \+ と入力します。このフィールドでは、\+ はワイルドカードを表しません。このフィールドに入力する \+ はダイヤルされる数字を表します。</p>
[インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを入力します。[インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] フィールドに入力した電話番号が、選択するパーティション内で一意であることを確認してください。</p> <p>(注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。</p>
説明	<p>電話番号とルートパーティションの説明を入力します。</p>

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	発信側電話機に表示する名前を入力します。 この設定は、QSIG プロトコルの ID サービスをサポートし、共有または非共有の電話番号に適用されます。
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。
インターコム電話番号の設定	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	該当するコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチスペースは、この電話番号からコールを発信できる番号を検索するための、パーティションのリストで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[インターコムプレゼンスグループ (Intercom Presence Group)]	この電話番号のプレゼンス グループを入力します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンドユーザ、アプリケーションユーザを指定します。
[インターコム表示 (Intercom Display)]	システムに内線番号を表示させるには、このフィールドを空白にします。 最大 30 文字の英数字を使用します。通常はユーザ名または電話番号を使用します (電話番号を使用すると、コール受信者が発信者を的確に認識できない場合があります)。
[インターコムASCII表示 (Intercom ASCII Display)]	このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display)] (内線発信者 ID) フィールドの内容が表示されます。
[インターコム回線テキストラベル (Intercom Line Text Label)]	このフィールドは、ラインアピランスにインターコム電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。
[インターコムスピードダイヤル (Intercom Speed Dial)]	ユーザがスピードダイヤルボタンを押したときにダイヤルされる電話番号を入力します。入力できるのは、数字の 0 から 9 まで、*、#、および + (国際エスケープ文字) です。

フィールド	説明
[インターコム外線電話番号マスク (Intercom External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者ID情報を送信するために使用する電話番号（またはマスク）を入力します。</p> <p>24桁までの数値、国際番号用のエスケープ文字+、文字「X」を入力できます。「」Xは電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク972813XXXXを指定すると、内線1234による外部コールにより、発信者IDの番号として9728131234が表示されます。</p>
[インターコム発信者名 (Intercom Caller Name)]	<p>コール転送時に発信者名を表示できるようにするには、「T」と入力します。表示を無効にするには、「F」と入力します。</p>
[インターコム発信者番号 (Intercom Caller Number)]	<p>コール転送時に発信者番号を表示できるようにするには、「T」と入力します。表示を無効にするには、「F」と入力します。</p>
[インターコムコール録音オプション (Intercom Call Recording Option)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは録音されます。
[インターコム録音プロファイル (Intercom Recording Profile)]	<p>エージェントのラインアピラン스의録音プロファイルを入力します。</p>
[インターコムモニタリング用コーリング サーチスペース (Intercom Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>既存のコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>デフォルト値は[なし (None)]です。</p>
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Auto Answer Off (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) 回線が共有されているデバイスに自動応答を設定することはできません。</p>

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成](#) (86 ページ)

Jabber デバイスの更新

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT) を使用すると、管理者は、Cisco Unified CM Administration のユーザーインターフェイスを使用して、LDAP 同期中に作成された自動プロビジョニングされた Cisco Jabber デバイスの名前を簡単かつ効率的に変更できます。

Jabber デバイスの名前の変更

始める前に

- すべての Cisco Jabber デバイスは、Unified CM サーバにすでに存在している必要があります。
- 新しい Cisco Jabber デバイス名に名前を変更する古い Cisco Jabber デバイス名のリストを含むテキスト (.txt) 形式のデータファイルが必要です。
- フィールドの値にカンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲む必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] [電話 (Phones)] [電話の更新 (Update Phones)] [クエリ (Query)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [電話の移行情報 (Phone Migration Information)] セクションの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
 - ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
 - ステップ 4** デバイス名を更新する方法を選択します。以下のいずれかを実行。
 - すぐにユーザを更新するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - デバイス名を後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] を選択します。
 - ステップ 5** EMCC デバイスを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
このジョブをスケジュールまたはアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。